

アユ資源の状況について

1. 魚群探知機による調査

① 周回魚群調査

- 水深30m等深線上の周回コースの魚群数による評価を行っている。
- 7月の魚群数は86群で平年比97%となり、1月以降、資源水準は平年を大きく下回る評価が続いていたが、7月は平年並みであった(図1,2)。

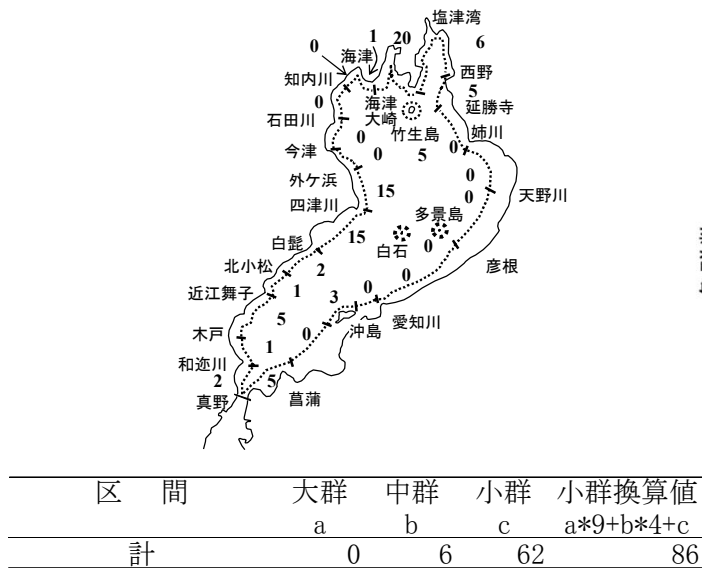


図1 令和7年7月魚探調査結果

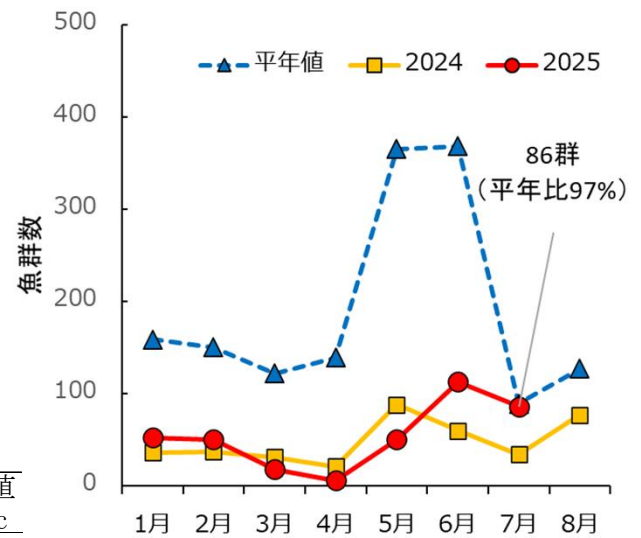


図2 令和7年の魚探調査結果の推移

② 北湖全域横断資源調査

- 北湖全域を横断するトランセクト調査の結果から、推定資源尾数による評価を行っている。
- 1月以降、資源水準は平年を大きく下回る評価が続いている。
- 6月の推定資源尾数は0.60億尾で平年比46%であった(図4)。7月は魚群探知機トラブルのため欠測。



図3 トランセクト魚探調査の調査線

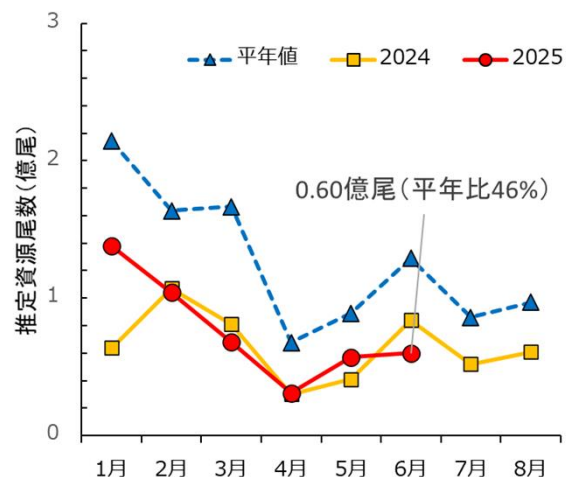


図4 令和7年のトランセクト魚探調査結果の推移

2. エリ漁獲アユの体型

- 7月の平均体長は76.6mm。12月解禁後から5月までは平年をやや下回って推移していたものの、6月以降には平年値を上回って推移(図5)。
- 7月の平均肥満度は2.6mm。12月解禁後から3月まで低下を続け、平年と比較してかなり低く推移。4月から5月にかけては平年値を下回っているものの上昇し、6月以降は再び低下に転じた(図6)。

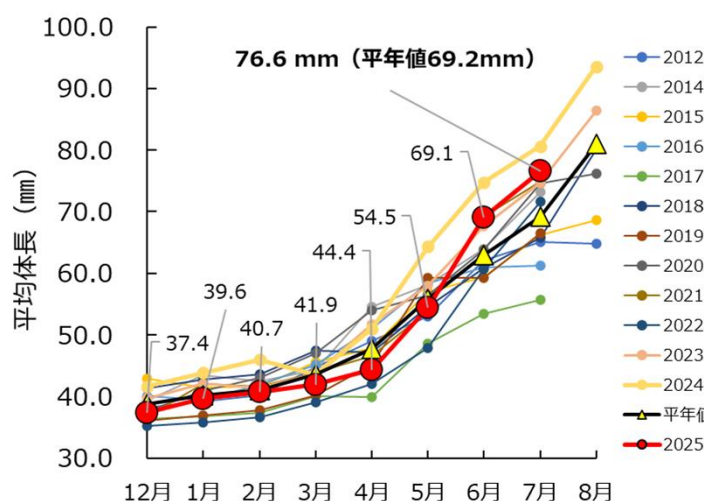


図5 エリ漁獲アユの平均体長の推移

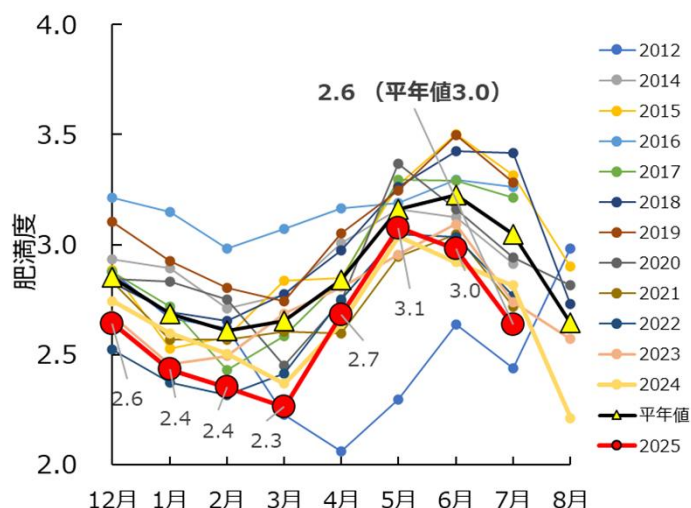


図6 エリ漁獲アユの平均肥満度の推移

3. 漁法別漁獲状況（今期とりまとめ）

漁法	漁獲状況
エリ	- 前年12月から4月まで極度の不漁。 - 北湖南部では5月上旬から、北湖北部では5月中旬から獲れはじめる。 6月からはワカサギが混ざり始め、7月末にはほとんどのエリが操業を終了した。 - 場所や日によって漁獲に差があった。
ヤナ	5月中旬から一部の河川で獲れはじめた。 7月以降は県内での雨量が少ないこともあり、河川水量が少なく低調であった。
おいさで	4月下旬から操業が開始されるが、例年に比べると低調であった。
小糸	4月下旬から一部の場所で獲れはじめ、7月以降も一定量の漁獲がされている。
すくい	琵琶湖全域で例年よりマキが見られない又は小さく、極度の不漁。